《2020 年度年間授業・行事予定》

4　月				5　月				6　月			
日	曜	予　定	実	日	曜	予　定	実	日	曜	予　定	実
1	水	入　寮　日		1	金	使徒聖ピリポ･ヤコブ		1	月		
2	木	11:00 入 学 礼 拝		2	土		①	2	火		
3	金	墓碑清掃、リトリート		3	日	復活節第４	㊎	3	水		
4	土	オリエンテーション		4	月			4	木		
5	日	復活前主日 実習先教会出席		5	火			5	金		
6	月	復活前月	㊎	6	水			6	土		①
7	火	復活前火 １学期授業開始		7	木			7	日	三位一体主日	㊎
8	水	復活前水		8	金			8	月		
9	木	聖木曜日		9	土		①	9	火		
10	金	聖金曜日 ※正午より休講・昼食なし		10	日	復活節第５	㊎	10	水		
11	土	聖土曜日 １学期教会実習開始	①	11	月			11	木	使徒聖バルナバ	
12	日	復　活　日	㊎	12	火			12	金		
13	月	復活後月曜日		13	水			13	土		①
14	火	復活後火曜日		14	木			14	日	聖霊降臨後第２	㊎
15	水	復活後水曜日		15	金			15	月		
16	木	復活後木曜日		16	土		①	16	火		
17	金	復活後金曜日		17	日	復活節第６	㊎	17	水		
18	土	復活後土曜日	①	18	月			18	木		
19	日	復活節第２	㊎	19	火			19	金		
20	月			20	水			20	土		①
21	火			21	木	昇天日		21	日	聖霊降臨後第３	㊎
22	水			22	金			22	月		
23	木			23	土		①	23	火		
24	金			24	日	復活節第７	㊎	24	水	洗礼者聖ヨハネ誕生日	
25	土	福音記者聖マルコ	①	25	月			25	木		
26	日	復活節第３	㊎	26	火			26	金	※ＣＰＥあり	
27	月			27	水			27	土	１学期授業終了	①
28	火			28	木			28	日	聖霊降臨後第４	㊎
29	水			29	金			29	月	使徒聖ペテロ・パウロ	
30	木			30	土		①	30	火		
				31	日	聖霊降臨日	㊎				

７　　月				８　　月				９　　月			
日	曜	予　　定	実	日	曜	予　定	実	日	曜	予　　定	実
1	水			1	土			1	火		
2	木	試験準備・補講週		2	日	聖霊降臨後第９		2	水		
3	金	※ＣＰＥあり		3	月			3	木	夏　期　実　習	
4	土		×	4	火			4	金		
5	日	聖霊降臨後第５	㊍	5	水			5	土		×
6	月			6	木	主イエス変容の日		6	日	聖霊降臨後第 14 他教派礼拝出席	×
7	火			7	金			7	月		
8	水	試　験　週		8	土			8	火	面 接（成績関係）	
9	木			9	日	聖霊降臨後第 10		9	水	２学期授業開始	
10	金	※ＣＰＥあり		10	月			10	木		
11	土		①	11	火			11	金		
12	日	聖霊降臨後第６ １学期教会実習終了	㊍	12	水			12	土	２学期教会実習開始	①
13	月			13	木			13	日	聖霊降臨後第 15	㊍
14	火	面接（礼拝・生活・学び）		14	金			14	月		
15	水	面接予備日		15	土	主の母聖マリヤ		15	火		
16	木	終　業　日		16	日	聖霊降臨後第 11		16	水		
17	金			17	月			17	木		
18	土	出　寮　日		18	火			18	金		
19	日	聖霊降臨後第７		19	水			19	土		①
20	月			20	木			20	日	聖霊降臨後第 16	㊍
21	火			21	金			21	月	福音記者使徒聖マタイ	
22	水	マグダラの聖マリヤ		22	土			22	火		
23	木	ニュース発送（予定）		23	日	聖霊降臨後第 12		23	水		
24	金			24	月	使徒聖バルトロマイ		24	木		
25	土	使徒聖ヤコブ		25	火			25	金		
26	日	聖霊降臨後第８		26	水			26	土		①
27	月			27	木	体験入学・入学案内・願書 VIA MEDIA 発送（予定）		27	日	聖霊降臨後第 17	㊍
28	火			28	金			28	月		
29	水			29	土			29	火	聖ミカエル諸天使	
30	木			30	日	聖霊降臨後第 13		30	水		
31	金			31	月	入　寮　日					

１０　月				１１　月				１２　月			
日	曜	予　定	実	日	曜	予　定	実	日	曜	予　定	実
1	木			1	日	諸聖徒日	㊍	1	火		
2	金			2	月			2	水		
3	土		①	3	火			3	木	試　験　週	
4	日	聖霊降臨後第 18	㊍	4	水			4	金	※ＣＰＥあり	
5	月			5	木			5	土		①
6	火			6	金			6	日	降臨節第２ ２学期教会実習終了	㊍
7	水	体　験　入　学		7	土		①	7	月		
8	木			8	日	聖霊降臨後第 22	㊍	8	火	面接（礼拝・生活・学び）	
9	金			9	月			9	水	面接予備日	
10	土		①	10	火			10	木	終　業　日	
11	日	聖霊降臨後第 19	㊍	11	水			11	金		
12	月	9:00 ウ主教碑清掃		12	木			12	土	出　寮　日	
13	火			13	金			13	日	降臨節第３	
14	水			14	土		①	14	月		
15	木			15	日	聖霊降臨後第 23	㊍	15	火		
16	金			16	月			16	水		
17	土		①	17	火			17	木	ニュース発送（予定）	
18	日	聖霊降臨後第 20	㊍	18	水			18	金		
19	月	福音記者聖ルカ		19	木			19	土		
20	火			20	金			20	日	降臨節第４	
21	水			21	土	２学期授業終了	①	21	月	使徒聖トマス	
22	木			22	日	降臨節前主日	㊍	22	火		
23	金			23	月	（京都教区会）		23	水		
24	土		①	24	火			24	木		
25	日	聖霊降臨後第 21	㊍	25	水			25	金	降誕日	
26	月			26	木	試験準備・補講週		26	土	聖ステパノ	
27	火			27	金	※ＣＰＥあり		27	日	降誕後第１	
28	水	リ セ ス		28	土		×	28	月	福音記者使徒聖ヨハネ	
29	木			29	日	降臨節第１	㊍	29	火	聖なる幼子	
30	金	※ＣＰＥあり		30	月	（使徒聖アンデレ） 14:00 レクイエム		30	水		
31	土		×					31	木		

1　　月				2　　月				3　　月			
日	曜	予　　定	実	日	曜	予　　定	実	日	曜	予　　定	実
1	金	主イエス命名日		1	月			1	月		
2	土	降誕後第２		2	火	被献日		2	火		
3	日			3	水	入 学 試 験		3	水		
4	月			4	木			4	木	試　験　週	
5	火	入　寮　日		5	金			5	金		
6	水	顕現日 面 接（成績関係）		6	土		①	6	土		①
7	木	３学期授業開始		7	日	顕現後第５	㊅	7	日	大斎節第３ ３学期教会実習終了	㊅
8	金			8	月			8	月		
9	土		×	9	火			9	火	面接（礼拝・生活・学び）	
10	日	顕現後第１ 他教派礼拝出席	×	10	水			10	水	面接予備日	
11	月			11	木			11	木		
12	火			12	金			12	金	終　業　日	
13	水			13	土		①	13	土		
14	木			14	日	大斎節前主日	㊅	14	日	大斎節第４	
15	金			15	月			15	月		
16	土	３学期教会実習開始	①	16	火			16	火		
17	日	顕現後第２	㊅	17	水	大斎始日		17	水		
18	月			18	木			18	木		
19	火			19	金			19	金	聖ヨセフ	
20	水	入学願書〆切		20	土	３学期授業終了	①	20	土		
21	木			21	日	大斎節第１	㊅	21	日	大斎節第５	
22	金			22	月			22	月		
23	土		①	23	火			23	火		
24	日	顕現後第３	㊅	24	水	使徒聖マッテヤ		24	水		
25	月	使徒聖パウロ回心		25	木	試験準備・補講週		25	木	聖マリヤへのみ告げの日	
26	火			26	金			26	金		
27	水			27	土		×	27	土		
28	木			28	日	大斎節第２	㊅	28	日	復活前主日	
29	金							29	月		
30	土		①					30	火		
31	日	顕現後第４	㊅					31	水		

《ウイリアムス神学館の礼拝》

礼拝は、ウイリアムス神学館における神学教育を根底から支える最も大切な行為である。礼拝を意味する様々な言葉は、「仕える」ことと関連している。わたしたちは日々の礼拝生活を通して、神とこの世界に仕えることを体験的に学び、また将来み心ならば、奉仕職としての職務を果たすための備えをする。

神学生は祈祷書等のルブリックおよび下記の諸注意をよく理解し、十分な準備をして礼拝に臨むことが望まれる。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
7:00	各自	9:00- 聖餐式	朝の礼拝／祈り	朝の礼拝／祈り	朝の礼拝／祈り	朝の礼拝／祈り み言葉の礼拝(月1回)
12:05	各自	昼の祈り	嘆　願	昼の祈り	嘆　願	昼の祈り
17:30	各自	夕の礼拝／祈り	夕の礼拝／祈り	唱詠夕の礼拝	夕の礼拝／祈り	(教会実習のない日) 各　自

Ⅰ　神学館共同体礼拝の約束事

１．週　　日

(1) 朝夕の礼拝と朝夕の祈りを隔週で用いる。

(2) 朝の祈りの時、聖歌は第１日課の後で用いる。夕の祈りの時、「聖書（新約聖書)」および聖歌は朝の祈りに準ずる（第１日課、第２日課を朗読する)。

(3) 詩編は座って唱える。詩編・賛歌などの「‖」は少し間を開け、句読点は続けて唱える。詩編・賛歌は司式者側と日課朗読者側とで交互に唱える。司式者と会衆が交互に唱えてもよい。歌う場合には、句読点で少し伸ばし、「‖」の間は息継ぎ程度にする。

(4) 毎月１回、土曜日の朝は「み言葉の礼拝」を行う。これは主日・祝日に用いるものであるが、神学館ではこの日に用いる。

(5) 第４土曜日は朝の祈りの週であっても朝の礼拝とし、「共同懺悔」を行う。

(6) 土曜日の「夕の礼拝／祈り」は、各自で行う。

(7) 聖職按手節、昇天前祈祷日は「用いてもよい」節・日であるが、神学館の礼拝では該当する祈りを代祷の個所で祈る。（聖職按手節は聖職按手、聖職のみに限定されず、広く神の民全体の様々な職務のための節なので、ふさわしい祈りを諸祈祷、特祷その他より探す。また昇天前祈祷日には「産業と産物のため」の祈りを用いる。）

(8) 小祝日の特祷を用いる場合は、「朝の礼拝／祈り」の代祷の箇所で行う。

(9) 聖餐式の前夕には、「夕の礼拝／祈り」に引き続き、「聖餐準備の式」を行う。

(10) 「聖餐準備の式」は、１．または２．と、３．４．５．のどれか一つを組み合わせるか、６．を単独で用いる。

２．祝　　日

(1) 大祝日には火曜日を除き午前７時より聖餐式を行う。月曜日・休暇の日が大祝日に当たる場合は復活前月曜日および復活後月曜日を除き聖餐式を行なわない。

(2) 昼の祈りでは「祈りましょう」の後に、嘆願では 104 頁で、祝日の特祷を入れるようにする。

(3) 夕の礼拝で祝日の聖語を用いる場合は「奉献唱、特別叙唱」（188 頁以下）のルブリックに注意する。

(4) 「前夕のある祝日」に注意する。

３．一般的約束事

(1) 現行祈祷書の作成精神に従い、ルブリックに精通し、いろいろな工夫、試みを行うようにする。

(2) 祈祷書をよく読み、どこにどのような祈りがあるか知っておき、いかなる時にもふさわしい祈りを用いられるようにする。

(3) **ゴシック体**の文章は、初めから唱える。

(4) 祈祷書中の人称（兄弟、彼等）は、祈りの内容に応じてふさわしく読み替える。
(5) 日課朗読者は、あらかじめ朗読する箇所を読んでおき、礼拝前には聖書の箇所を確認（しおりを挟む等）して、読み間違いのないように注意する。
(6) 聖餐式のサーバーは前日に司式者に連絡を取り、祭服など必要事項を確認しておく。
(7) 代祷は、必ず祈りを求める内容を具体的にアナウンスする。代祷の「祈祷文」は「諸祈祷」（106頁以下）だけでなく、内容に応じて「特祷」その他祈祷書全体から選び、多少の字句の修正を行って用いる習慣をつける。
(8) 世界諸教会の代祷は、まず聖公会名（管区名）等を言ってから教区名に移る。国内の場合は、教区名を言ってから教会名に移る。
(9) 聖餐式中の代祷では、初めに（「執事」の呼びかけの後）代祷項目をあげる。または（ことに――）の部分に代祷項目（例：ことに○○聖公会△△教区）を具体的に入れる。
(10) 聖餐式中の代祷で、（ことにわたしたちの主教――）の――の部分は、「ステパノ」と呼ぶ。
(11) 礼拝中の個人の所作については、各自の判断に委ねられる。

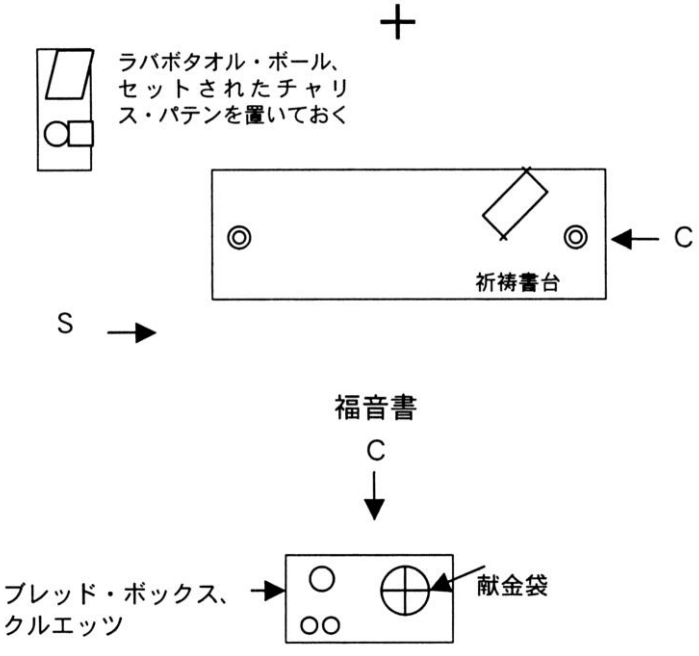
Ⅱ　神学生個人の祈り

わたしたちは神学館共同体としての礼拝によって養われると同時に、神学生一人ひとりの個人の祈りによっても養われる。個人の祈りは共同体の営みを損なわない限り、尊重され、推奨される。そのために チャペルを用いることができる。

Ⅲ　神学館チャペルでの聖餐式の献げ方

◇参入よりみ言葉の部分まで

C：Celebrant（司式者） **S**：Server（侍者）　　**L**：Lector（聖書朗読者）

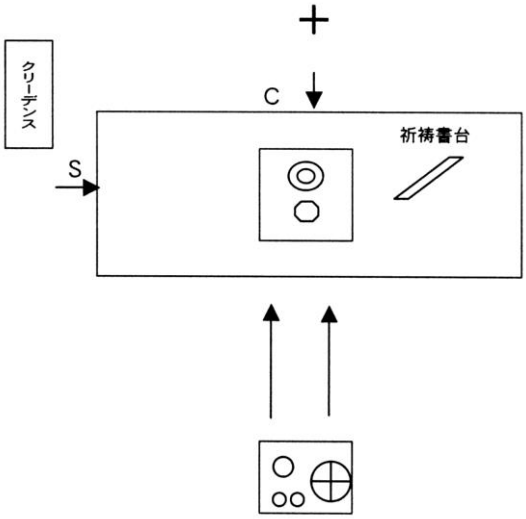


(1) 入堂：聖卓の前で礼をし、左右に分かれる。
(2) 旧約聖書朗読者は、会衆席より使徒書側へ行き、朗読する。
(3) 「詩編」は**S**が先唱し、**S**側と司式者側とで交互に歌う。**S**側と会衆席とで交互に歌ってもよい。「栄光の唱」は用いない。詩編は黙想型の短いものを用いる。
(4) 「詩編」の後、**S**は使徒書を使徒書側で朗読する。
(5) **C**は、会衆席の中央で福音書を朗読する。

(6)　代祷は会衆席より行う。
(7)　平和の挨拶は全員で握手する。

◇聖　餐　の　部　分

【奉献準備】



(1)　Cが奉献唱を唱えた後、Sは聖歌をアナウンスする。
(2)　Sは、セットされたチャリス･パテンをCに渡す。
(3)　代祷朗読者は、ブレッド・ボックス、クルエッツをSに渡す。
(4)　Sは、ブレッド・ボックス、クルエッツの盆をクリーデンス・テーブルに置く。
(5)　Sは、ブレッド・ボックスからパンを、またクルエッツをCへ。
(6)　奉献聖歌最終節で、旧約聖書朗読者は信施（袋）をSに渡し、そのまま待つ。その時、代祷朗読者は旧約聖書朗読者と並んで立つ。奉献担当者は聖歌集を持参する。
(7)　Sは、信施をCに渡す。(または、そのまま捧げ持っている。)
(8)　奉献の祈りの後、Cは洗手する。洗手の間に、全員聖卓を囲んで立つ。（祈祷書、聖歌集を持参）
(9)　Sは、Cの洗手の後、信施をクリーデンス・テーブルに置く。

【感謝聖別】

(1)　全員、祭壇上に注目して式を続行する。
(2)　感謝聖別文はⅠとⅡを隔週で用いる。Cはジェネフレクションはしない。また制定語の所作は自由。
(3)　Sは「サンクトゥス」「アニュス・デイ」を、Cは「記念唱」を先唱する。
(4)　降臨節と大斎節には「近づきの祈り」も用いる。

【陪餐以降】

(1)　アブリューションの後、Sはセットされたチャリス・パテンをCより受け取り、クリーデンス・テーブル上に置く。
(2)　派遣の唱和の後、全員聖卓に礼をし、自席に戻る。

※　５～８頁の諸事項は、ウイリアムス神学館での約束事である。実習教会や出身教会（教区）にもそれぞれのリチュアルがあるので、それに従うこと。

《2020 年度　教　授　構　成》

教授氏名	所　　属	担　当　講　義 （　）内は本年度休講
高地（こうち）　敬（たかし）	京都教区主教・理事長	ギリシャ語Ⅰ
黒田（くろだ）　裕（ゆたか）	京都教区司祭・館長	英書講読、(説教論)、聖書研究、夏期実習、実践神学特講
岩城（いわき）　聰（あきら）	大阪教区司祭	教会史、教理学Ⅰ、(牧会と宣教)
浦地（うらぢ）　洪一（こういち）	京都教区司祭	法憲法規特別講義
勝村（かつむら）　弘也（ひろや）	神戸松蔭女子学院大学名誉教授	旧約入門、旧約釈義、(旧約神学)
越川（こしかわ）　弘英（ひろひで）	同志社大学教授	礼拝学Ⅰ
下田屋（しもだや）一朗（いちろう）	京都教区司祭	ヘブライ語Ⅰ、(ヘブライ語Ⅱ)
シュペネマン・クラウス	同志社大学名誉教授	（キリスト教倫理学）
辻（つじ）　彩乃（あやの）	川口基督教会信徒	教会音楽
津田（つだ）　謙治（けんじ）	京都大学教授	教理学特講
出口（でぐち）　創（はじめ）	京都教区司祭	（日本キリスト教史）
濱崎（はまざき）　雅孝（まさたか）	関西学院大学、大阪府立大学工業高等専門学校、非常勤講師	（教理学Ⅱ）、文献講読
林（はやし）　和広（かずひろ）	神戸教区司祭	聖書研究、聖公会論、聖書内容試験Ⅰ
麓（ふもと）　敦子（あつこ）	京都教区司祭	（礼拝学Ⅱ）
前川（まえかわ）　裕（ゆたか）	関西学院大学准教授	新約入門、新約神学、聖書内容試験Ⅱ
嶺重（みねしげ）　淑（きよし）	関西学院大学教授	（新約釈義）

職員と協力スタッフ

氏　　名	所　　属	担　　当
前田（まえだ）　伸子（のぶこ）	大津聖マリア教会信徒	主事
鈴木（すずき）　恵一（けいいち）	京都教区司祭	外部協力スタッフ
宮田（みやた）　玲（あきら）	同志社大学、関西学院大学他非常勤講師	図書館
脇田（わきた）　祐治（ゆうじ）	京都聖ヨハネ教会信徒	後援会会計担当
羽根美恵子（はねみえこ）、和田（わだ）　信子（のぶこ）、田中（たなか）　圭子（けいこ）		食事担当

《ウイリアムス神学館の教育課程》

1．授　業　構　成

学年	旧約学	新約学	教理学	教会史	礼拝学	牧会・宣教	基礎学/語学
1	旧約入門	新約入門		教　会　史			文献講読 英書講読 哲学入門 ギリシャ語Ⅰ バイコン
2	旧約神学 旧約釈義 （隔年）	新約神学 新約釈義 （隔年）	教理学Ⅰ 聖公会論	日本キリスト教史	礼拝学Ⅰ	臨床牧会訓練	ギリシャ語Ⅱ バイコン (ラテン語Ⅰ) (ヘブライ語Ⅰ)
3			教理学Ⅱ キリスト教倫理学		礼拝学Ⅱ	説教論 牧会と宣教	(ラテン語Ⅱ) (ヘブライ語Ⅱ) (ギリシャ語Ⅲ)
全					教会音楽	教会実習 夏期実習 特別講義	聖書研究 教会問答

※ゴシック体は必修科目、（明朝体）は選択科目

1年次		2年次		3年次
神学の基礎 3年間の学びをするのに必要な基礎知識、神学書の読み方、語学等、基礎学を中心に学ぶ。	⇒	**神学の形成** 奉仕職として必要な基礎知識を系統的に学ぶ。	⇒	**神学の展開／確認** 1・2 年次の学習を発展させつつ学びを整理し、卒業後に向けて自らの弱さ・貧しさに気づく。

①3 年間の教育課程は、奉仕職として立てられるのに必要と思われる必修科目と、語学関係の選択科目からなっている。神学するための基礎的な力をつけ、できる限り自分の言葉で語ることが重視される。

②全学年共通科目は必修で 3 年間を通して履修する。ことに教会実習はテキスト学習だけでは身につけることの出来ないコンテキスト学習を、宣教の第一線で働く牧師の生き方を通して身につける。

③神学生の資質・能力に併せて、必要に応じて個人指導（チュートリアル）を行うことがある。

④神学の学びは教室や実習だけでなく、寮における共同生活、交わり、礼拝を通して形成されることを重視する。

⑤　学年は 3 学期制で構成され、毎年 4 月 1 日より始まり、翌年の 3 月 31 日に終る。
　1 学期：4 月上旬より 7 月中旬まで、
　2 学期：9 月第 1 月曜日より 12 月中旬まで、
　3 学期：1 月上旬より 3 月中旬まで

⑥　授業日数は、オリエンテーション、夏期実習（海外もしくは遠隔地研修含む）、リセス、学期末面接期間を除く、年間 30 週程度を目処とする。

2．学期末試験について

①定期試験を行う場合は原則的に各学期末に行う。定期試験を受けなかった者または合格しなかった者については、事情によって再試験を行うことがある。

②試験方法は、筆記・レポート等により、担当教員が指定する。

③レポートの提出日時は厳守しなければならない。提出方法は担当教員が指定する。

④評価は以下の 5 段階で行い、D 以上を合格とする。ただし A～D については「＋」「－」で表示することもある。なお聖書内容試験に限り 50 点（E）以上で合格とする。

A（100～90 点）　B（89～80 点）　C（79～70 点）　D（69～60 点）　E（59 点以下）

３．神学生の区分

本館は全寮制であるので、学生の就学状態によって以下のように区分する。

①本科生：3 年間在寮し、所定の全課程を履修する者。

②特別聴講生：3 年間、寮には入らず在学し、所定の全課程を履修する者。

③教区派遣科目聴講生：1 年以上在学し、当該教区と神学館の合意のもとに複数科目を履修する者。

４．卒業認定について

本科生で、以下の条件を満たす者について卒業を認定し、卒業証書を授与する。

①所定の全課程に合格していること。

②3 年間、寮生活をしていること。

③卒業小論文を提出していること。

５．修了・修業認定について

以下の条件を満たす者について認定する。

①特別聴講生で、所定の全課程に合格した者は修了を認定し、修了証書を授与する。

②教区派遣科目聴講生で、当該教区との協議により指定された科目を合格した者は修業を認定し、修業証書を授与する。

③本科生、特別聴講生で、所定の課程のうち 9 割を合格した者は修業を認定し、修業証書を授与する。

６．伝道師および信徒の奉仕職養成について

受講希望者および所属教区の意向を踏まえ、神学館との協議に基づいて柔軟にコースを編成する。

本館がかつて開講していた「伝道師養成コース」のカリキュラムを一例として以下に提示する。

①カリキュラム例

必修科目と選択必修科目からなる。選択必修科目は最低 1 科目を履修しなければならない。それ以外に本科生の科目を履修することも可能である。本科生と共通科目、このコース単独の科目がある。

必 修 科 目	共通・通年	旧約入門、新約入門、礼拝学Ⅱ、教会音楽、 聖書研究、教会実習、夏期実習
	単・前／後	前／礼拝学入門、後／牧会学概論と法憲法規
	単・1／2／3	1／教会問答、2／聖公会入門、3／奨励の意味と実践、
選択必修科目	共通・通年	文献講読、英書講読、教会史、教理学Ⅰ、 ギリシャ語Ⅰ、聖書内容試験

②学期末試験について

ⅰ）定期試験は、各学期末に行う。定期試験を受けなかった者または合格しなかった者については、事情によって再試験を行うことがある。

ⅱ）試験方法は、筆記・レポート等により、担当教員が指定する。

ⅲ）レポートの提出日時は厳守しなければならない。提出方法は担当教員が指定する。

ⅳ）評価は以下の５段階で行い、D 以上を合格とする。ただし A～D については「＋」「－」で表示することもある。なお、聖書内容試験は 50 点（E）以上で合格とする。

A（100～90 点）　B（89～80 点）　C（79～70 点）　D（69～60 点）　E（59 点以下）

③修了認定について

所定の課程に合格した者は、伝道師養成課程修了証書、信徒の奉仕職養成課程修了証書等の授与をもって修了を認定する。

《２０２０年度講義科目》

★ 必 修 科 目 ★

１ 年 次

文 献 講 読	[濱﨑]	伝信選
英 書 講 読	[黒田]	伝信選
哲 学 入 門	[ ]	休講
旧 約 入 門	[勝村]	
新 約 入 門	[前川]	
教 会 史	[岩城]	伝信選
ギリシャ語Ⅰ	[高地]	
聖書内容試験Ⅰ	[林]	伝信選

２ 年 次

教 理 学 Ⅰ	[岩城]	伝信選
聖 公 会 論	[林]	
日本キリスト教史	[出口]	休講
礼 拝 学 Ⅰ	[越川]	
ギリシャ語Ⅱ	[黒田]	
臨床牧会訓練	[ﾊﾞﾌﾟﾃｽﾄ病院]	
聖書内容試験Ⅱ	[前川]	

２・３年次合同（隔年）

旧 約 神 学	[勝村]	休講
旧 約 釈 義	[勝村]	
新 約 釈 義	[嶺重]	休講
新 約 神 学	[前川]	

３ 年 次

教 理 学 Ⅱ	[濱﨑]	休講
キリスト教倫理学	[シュペネマン]	休講
礼 拝 学 Ⅲ	[麓]	休講
説 教 論	[黒田]	休講
牧会と宣教	[岩城]	休講
法憲法規特講	[浦地]	休講
卒 業 小 論 文		休講

★伝道師および信徒の奉仕職養成課程★

カリキュラムの一例

旧 約 入 門	
新 約 入 門	
（前期）	礼 拝 学 入 門
（後期）	牧会学概論と法憲法規
礼 拝 学	Ⅱ
（1学期）	教 会 問 答
（2学期）	聖 公 会 入 門
（3学期）	奨励の意味と実践

【伝信選】は、この課程の選択科目例

★ 選 択 科 目 ★

※ 選択科目中の語学は在学中どれかを努めて履修することが望ましい。

２ 年 次

ヘブライ語Ⅰ	[下田屋]	
ラ テ ン 語 Ⅰ	[ ]	休講

３ 年 次

ギリシャ語Ⅲ	[ ]	休講
ヘブライ語Ⅱ	[下田屋]	休講
ラ テ ン 語 Ⅱ	[ ]	休講

★ 全学年･伝信選養成課程共通科目 ★

教 会 音 楽	[辻]	
聖 書 研 究	[黒田・林]	1～2学期
実践神学特講	[黒田・林]	3学期
教 会 実 習	[黒田]	
人 間 関 係 論	[ ]	休講

★ その他 ★

集中講義（ハラスメント防止関係）

神学館講演会

特別研修

《２０２０年度学年別講義内容》

≪１　　年≫

文　献　講　読　（濱﨑雅孝）

Ⅰ．講義内容

この授業では、岩波文庫で読める古典的名著の中で、特に信仰の糧になると思われるものを読んでいく。古典に含まれている知恵を学び、基本的な教養を身につけることで、自らの信仰を深めていくことを目標とする。授業は、①最初に講師が著者の人物像と時代背景、思想的特徴などを説明し、②受講者がそれぞれの担当箇所の内容を要約し、③それについての考えを発表していく、という形式で進めていく。

さしあたり、アウグスティヌスの『告白』から読み始めるが、受講者の理解度に応じて、以下のリストから続けて読んでいくものを選んでいく予定である。

Ⅱ．評価方法

（１）授業内における各自の発表と、それに対する質疑応答の内容（50%）

（２）学期末レポート（50%）

Ⅲ．テキスト

（授業期間内にすべてを読むわけではありません。）

＊アウグスティヌス『告白』

＊プロチノス『善なるもの 一なるもの』

＊トマス・ア・ケンピス『キリストにならいて』

＊ルター『キリスト者の自由・聖書への序言』

＊イグナチオ・デ・ロヨラ『霊操』

＊ヒューム『自然宗教についての対話』

＊カント『永遠平和のために』

＊ジェイムズ『宗教的経験の諸相』

＊シュヴァイツェル『イエスの生涯』『キリスト教と世界宗教』

＊オットー『聖なるもの』

＊内村鑑三『余はいかにしてキリスト信徒となりしか』

＊南原繁『国家と宗教』

＊波多野精一『基督教の起源』

＊西田幾多郎『善の研究』

＊鈴木大拙『日本的霊性』

＊井筒俊彦『イスラーム文化』

英　書　講　読　（黒田　裕）

Ⅰ．講義内容

神学に関する邦訳書は決して十分とは言えないが、とりわけ聖公会関係の資料となるとその数は格段に少なくなると言わざるをえない。そのため少しでも英書に慣れておくことは今後の学びにとっ

て有益となるであろう。前半では英国宗教改革からエリザベスの宗教解決、聖公会神学（ヴィア・メディア）の登場までの歴史を概観し、それが終わり次第、聖公会の重要な資料を原文で味読することを目標とする。

Ⅱ．講義形式・評価方法

授業は、発表形式もしくは講義による。評価は発表の内容および授業への参加度によって行なう。

Ⅲ．テキスト・参考文献

＊J. R. H. Moorman, *A History of The Church in England*, 3rd ed. , N.Y., Morehouse Publishing, 1980(1963)

※とくに XI.-XIII。その部分のコピーでもよい。なお、本書には邦訳がある。J.R.H.ムアマン『イギリス教会史』八代崇他訳、聖公会出版、1991 年。本書を適宜参照してもよい。

＊マーク・チャップマン『世界聖公会物語』岩城聰訳、かんよう出版、2013 年

＊八代崇『新カンタベリー物語』（聖公会出版）−入手できない場合は館長に申し出ること

その他資料は授業の中で提示もしくは配布する

哲　学　入　門　（　　）

本年度休講

旧　約　入　門　（勝村　弘也）

Ⅰ．講義内容

１学期：旧約の舞台となった地域の風土と歴史を学びつつ、旧約の全体の構成を概観する。続いてトーラー（律法）について、その成立の歴史を概観しながら、いくつかの箇所についてその内容を解説する。聖歌の源泉となっている詩篇についても少し触れる。

２学期：紀元前８世紀中頃以降に登場した預言者について、当時の世界状況とからめて論じる。

アモス書、イザヤ書から代表的なテクストを取り上げ読み解く。

３学期：詩篇の研究の歴史を概観しながら、いくつかの詩篇を読み解いてゆく。箴言についても概観する。

Ⅱ．成績評価

数回のテストとレポートを総合して評価する。

Ⅲ．テキスト、参考文献

【教科書】

＊勝村弘也著『旧約聖書に学ぶ』日本キリスト教団出版局、1993 年

【参考文献】

＊並木浩一／荒井章三編『旧約聖書を学ぶ人のために』世界思想社、2012 年

＊その他、授業中に指示する。

新　約　入　門　（前川　裕）

Ⅰ．講義内容

新約聖書に含まれる各文書の成立背景、構成、思想的特色の概要（緒論）を学びつつ、新約聖書全体を学問的に概観する。教科書に沿って、おおむね新約聖書の配列順に学ぶ。毎回の予習として、次回の教

科書範囲および当該文書を読んでおくこと。

Ⅱ．成績評価

各学期末の試験成績および平常点（受講への取り組み姿勢など）を総合して評価する。

Ⅲ．テキスト、参考文献

【教科書】

＊原口尚彰『新約聖書概説』教文館、2004 年（講義のテキストとして使用するので各自入手すること）

その他、補足として必要に応じて資料を配布する。

【その他の参考文献】

（いずれも高価なため必ずしも購入する必要はない；図書室での所在は確認しておくこと）

＊荒井献他『総説 新約聖書』日本基督教団出版局、1981 年

＊大貫隆・山内眞監修『新版　総説 新約聖書』日本基督教団出版局、2003 年

＊田川建三『書物としての新約聖書』勁草書房、1997 年

教　　会　　史　（岩城　聡）

Ⅰ．講義内容

古代から現代までの 2000 年におよぶ教会の歩みを概観する。基本的に講義形式で行う。

Ⅱ．成績評価

授業への参加度、各学期末に行う筆記試験によって評価する。

Ⅲ．テキスト・参考文献

＊菊地榮三・菊地伸二『キリスト教史』教文館、2005 年

＊菊地伸二『今さら聞けない!? キリスト教―キリスト教史編』教文館、2019 年

それ以外のものについては授業中に提示する。

聖書内容試験Ⅰ　（林　和広）

Ⅰ．目　標

旧約聖書と新約聖書の各書を熟読し、全体の概要を把握すること。

Ⅱ．成績評価

試験の平均点と「聖書を読む」姿勢の総合評価を含めて、平均点 50 点以上を合格とする。

Ⅲ．テキスト

＊『新共同訳聖書　旧約聖書続編付』（日本聖書協会）を用いる。

≪2　　年≫

旧　約　釈　義　―2･3 年共通　（勝村　弘也）

Ⅰ．講義内容

１学期、旧約原典、古代訳の特徴について概説する。各国語に訳した場合に生じる問題についても例を

挙げて説明する。次に創世記１章、２２章、十戒などを取り上げる。

２学期、創世記１２章以下、詩篇、箴言から数箇所を選んでの演習形式の授業。

３学期、預言書から数箇所を選んでの演習形式の授業。

Ⅱ．講義形式・成績評価

講義と受講者による研究発表を併用する。発表内容とともに各学期末に提出するレポートによって成績を評価する。

Ⅲ．テキスト・参考文献

＊ゲルハルト・リートケ著、安田治夫訳『生態学的破局とキリスト教』新教出版社、1989 年

＊シュタム、アンドリュウ著、左近淑、大野恵正訳『十戒』新教出版社、1970 年

＊B･S･チャイルズ著、近藤十郎訳『出エジプト記下』日本基督教団出版局、2010 年

＊『新共同訳旧約聖書注解 Ⅱ』日本基督教団出版局、1994 年

＊『旧約新約聖書大事典』教文館、1989 年

＊関谷定夫著『図説 旧約聖書の考古学』ヨルダン社、1986 年勝村弘也著『旧約聖書に学ぶ』日本キリスト教団出版局、1993 年

旧　約　神　学　－2･3 年共通　（勝村　弘也）

本年度休講（隔年開講）

新　約　釈　義　－2･3 年共通　（前川　裕）

本年度休講（隔年開講）

新　約　神　学　－2･3 年共通　（前川　裕）

Ⅰ．講義内容

新約聖書文書の神学思想について、思想の歴史的成立順序に従って学ぶ。教科書の内容のまとめを受講生に発表して頂き、それをもとに討議を行って理解を深める。参加者の積極的な取り組みに期待する。

Ⅱ．成績評価

各学期末の試験ないし受講への取り組み等の平常点を総合して評価する。

Ⅲ．テキスト、参考文献

【教科書】

＊Ｅ・ローゼ『新約聖書神学概説』日本キリスト教団出版局、1982 年（オンデマンド 2006 年)。

（講義のテキストとして使用するので各自入手すること。旧版・オンデマンドいずれでも差し支えない）

【参考文献】（必ずしも購入しなくてよいが、図書室等での所在は確認しておくこと）

＊講義中に適宜提示する。

教　理　学　Ⅰ　（岩城　聰）

Ⅰ．講義内容

聖公会における教理学の方法論、基本的な考え方を分かち合い、その後、宗教改革以後、歴史的に形成されてきた教理学の基本問題について理解を深める。古代における教理形成のプロセスについては、別の講義に委ねることとする。

主な項目：

①何のために教理学を学ぶのか（考え方・学の方法論）

テキストとコンテキスト／相関の方法（二極的方法）／doing theology／聖書と理性と伝統など

②聖公会の教会問答に基づく教理学の基礎的問題

使徒信経とニケヤ信経／三一論／聖書とは何か／旧約と新約の関係／祈りとは何か／サクラメント論／使徒信経とニケヤ信経／サクラメント論／教会論／職制論

③宗教改革以後の基本的課題

宗教改革の基本原則／サクラメント論／啓示の源泉／予定説・救済論

Ⅱ．講義形式・成績評価

授業は基本的に講義とするが、適宜学生の研究発表を求める。評価は、授業への参加度、各学期末の筆記試験（記述）に基づいて行う。

Ⅲ．必読文献・参考文献

＜必読文献＞

＊祈祷書の『公会問答』

＊岩城聡『聖公会の公会問答－信仰の手引き』(2013, 聖公会出版)

＊『１９９８年ランベス会議報告・決議・牧会書簡』

＊塚田理『聖公会の伝統を探る』(2012,聖公会出版)

＊A・リチャードソン『キリスト教教理入門』

＜参考図書＞

＊西原廉太『聖公会の職制論―エキュメニカル対話の視点から』(2014､聖公会出版)

＊ポールエイヴィス『教会の働きと宣教』(2012､聖公会出版)

＊A・E・マクグラス『キリスト教神学入門』(2002、教文館)

＊佐藤敏夫『キリスト教神学概論』(1994、新教出版社)

＊J・ペリカン『キリスト教の伝統－教理発展の歴史』１～５巻

＊J.N.D　ケリー『初期キリスト教教理史』上下　(2010, 一麦出版社)

＊M.ルター『キリスト者の自由』(岩波文庫)

＊J・カルヴァン『キリスト教綱要 1536 年版』(教文館)

教理学特講(2学期)　(津田謙治)

Ⅰ．講義内容

使徒の活動以後に教理の形成に関わった教父たちの思想に着目し、主としてカルケドン公会議（451 年）までの時代を概観する。古代哲学（プラトン主義やストア主義など）の受容や異端（グノーシスやアレイオス主義など）との論争の中で、神概念、キリスト論、贖罪論、三位一体論、教会論などを、教父たちがどのように構築したかを分析する。

Ⅱ．成績評価

学期間に数回小テストを行い、学期末のレポートと総合して評価する。

Ⅲ．テキスト・参考文献

＊J.N.D. ケリー著『初期キリスト教教理史〈上巻〉・〈下巻〉』津田謙治訳、一麦出版社、2010 年

＊小高毅編『原典 古代キリスト教思想史 1-3』教文館、1999-2001 年

＊水垣渉・小高毅編『キリスト論論争史』日本キリスト教団出版局、2003 年

聖　公　会　論　（林　和広）

Ⅰ．講義内容

聖公会の源流を探りつつ、その歴史的変遷及び特質を概観する。

Ⅱ．評価方法

各自の授業参加度、学期末の小レポートで評価する。

Ⅲ．主な参考図書

＊塚田理『イングランドの宗教』教文館、２００４年
＊八代崇『イギリス宗教改革史』創文社、１９７９年
＊西原廉太『聖公会が大切にしてきたもの』聖公会出版、２０１０年
＊西原廉太『続・聖公会が大切にしてきたもの』聖公会出版、２０１２年
＊マーク・チャップマン『聖公会物語』岩城聰監訳、かんよう出版、２０１３年
＊J.R.Hムアマン『イギリス教会史』八代崇他訳、聖公会出版、１９９１年
―その他はその都度指示する。

日本キリスト教史　（出口　創）

本年度休講

礼　拝　学　Ⅰ　（越川弘英）

Ⅰ．講義内容

キリスト教礼拝の本質、歴史、そして現代における様々な実践と課題について学ぶ。毎回の授業でレジュメを配布し、基本的に講義形式で行う。

Ⅱ．評価方法

授業への出席、学期末レポートによって評価する。

Ⅲ．テキスト

『キリスト教礼拝・礼拝学事典』（今橋朗・竹内謙太郎・越川弘英　監修／日本基督教団出版局）
＊参考文献については授業の中で詳しいリストを配布する。

ギ リ シ ャ 語 Ⅱ　（黒田　裕）

Ⅰ．講義内容

ギリシャ語Ⅰで用いた文法書の残りの部分を学んだ後、聖書本文（「ヨハネの手紙一」「マルコによる福音書」を予定している）を講読する。

Ⅱ．成績評価

文法については練習問題の解答、聖書本文については訳文、および、いずれも授業への参加度による。

Ⅲ．テキスト、参考文献

文法：J.G.メイチェン著『新約聖書ギリシャ語原典入門』田辺滋訳、新生宣教団、2000 年
新約聖書ギリシャ語テキスト：以下の三書のいずれでも良いが UBS の辞書つきのものを推奨する。
＊*The Greek New Testament*, 4th edition, United Bible Societies, 1993、
＊*Novum Testamentum Graece*, Nestle-Aland, 27th edition, 1994、
＊*Novum Testamentum Graece*, Nestle-Aland, 28th revised edition, 2012 のいずれでもよい。

臨 床 牧 会 訓 練　（日本バプテスト病院）

Ⅰ．講義内容

同志社大学大学院神学研究科実践神学研究演習を履修する同志社大学神学部の学生と共同で、日本バプテスト病院で行う。毎週１回、同病院に通い、オリエンテーションを十分に受けた上で病床訪問し、他者との関わりのあり方を実践とその後の振り返りを通して学んでいく。終末医療、看護などについての講義もある。的確かつ真実な援助はけっして自然発生的に実現するものではない。特に人間の危機的状況に対しての援助は状況判断の正確さ、求められている援助の内容の把握、必要な関連集団の理解、援助の方法の判断、そして深い精神的思慮に基づく他者への関心が必要とされる。その実現を理想として，このクラスは教育の場を日本バプテスト病院の協力により病院内に置き、患者への援助表現としての訪問をめざしてすすめる。スーパーバイザーの指導の下に非構造的な教育を基本とする。「牧会的」援助者は医療従事者ではないが、患者の「心のニード」に対して医療関係者との密接な協力関係を得て果たすべき重要な役割を担う。そのためにも、医療施設である病院を良く理解すること、患者が置かれているさまざまな心理的状況にたいして繊細な心を持つこと、自分の心の動きを的確にとらえて必要な姿勢を組むことなど共に考え学ばなければならないことは多い。医師、看護婦、ケースワーカーなど、専門家の講義を必要に応じて計画する。

Ⅱ．成績評価

授業参加度、レポート、会話記録提出度等による。

Ⅲ．参考文献

＊関田寛雄他編『総説 実践神学』日本基督教団出版局、1989 年
＊長谷川浩編『行動科学と医療－行動保健医療の実際・電話相談，HIV カウンセリング，死の臨床を例として－』弘文堂、1991 年
＊ジェームス・ヒルマン著，樋口和彦訳『内的世界への探求』創元社、1990 年
＊三永恭平『こころを聴く』日本基督教団出版局、1986 年
＊ゴードン・C. ハンブリー『新・電話カウンセリング』一麦出版社、1997 年
＊工藤信夫著『援助者とカウンセリング』いのちのことば社、1992 年
＊D.アウグスバーガー著『親身に聞く』すぐ書房、1988 年
＊三永恭平他『現代キリスト教カウンセリング，1-3 巻』日本基督教団出版局、2002 年

聖 書 内 容 試 験 Ⅱ　（前川　裕）

Ⅰ．目　標

新約聖書の残りの各書を熟読し、全体の概要を把握すること。1 学期末まで。

Ⅱ．成績評価

試験の平均点と「聖書を読む」姿勢の総合評価を含めて、平均点 50 点以上を合格とする。

Ⅲ．テキスト

＊『新共同訳聖書』（日本聖書協会）を用いる。

≪３　　年≫

旧　約　釈　義　－2･3 年共通　（勝村　弘也）

P. 14. 参照

旧　約　神　学　－2･3 年共通　（勝村　弘也）

本年度休講（隔年開講）

新　約　釈　義　－2･3 年共通　（前川　裕）

本年度休講（隔年開講）

新　約　神　学　－2･3 年共通　（前川　裕）

P. 15. 参照

教　理　学　Ⅱ　（濱﨑　雅孝）

本年度休講

キリスト教倫理学　（シュペネマン・クラウス）

本年度休講

礼　拝　学　Ⅲ　（麓　敦子）

本年度休講

説　教　論　（黒田　裕）

本年度休講

牧 会 と 宣 教　（岩城　聰）

本年度休講

神　学　特　講（3 学期）　（黒田　裕）

本年度休講

卒 業 小 論 文

本年度休講

≪選　択　科　目≫

ヘ ブ ラ イ 語 Ⅰ　（下田屋一朗）

Ⅰ. 講義内容

旧約聖書を原典で読むための聖書ヘブライ語初級コース。ヘブライ語の読み方および基本的な文法を学ぶ。

Ⅱ. 成績評価

授業および課題への取り組み状況と達成度による。

Ⅲ. テキスト・辞書・参考文献

＜テキスト＞

授業で配布するプリントをテキストとして用いる。併せて「演習問題集」および「語彙集」のプリントも配布する。

Biblia Hebraica Stuttgartensia.(BHS)

＜辞書＞　（いずれ必要になるので、どれか一つ持っているとよい）

The Brown-Driver-Briggs Hebrew and English Lexicon, (Coded with Strong's Concordance Numbers), Hendrickson Publishers .(BDB)

Koehler & Baumgartner, *The Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament*, Study Edition, 2 vols. Brill, 2001. (HALOT)

＜参考文献＞

P.H.Kelly, *Biblical Hebrew: An Introductory Grammar*, Grand Rapids: Eerdmans, 1992.

日本語による文法書としては：左近義慈・本間敏雄『ヒブル語入門[改訂増補版]』教文館

Todd Murphy, *Pocket Dictionary for the Study of Biblical Hebrew*, IVP Academic, 2003.

（文法用語に関する簡易な事典）

以下は初級文法を終えてから役に立つもの：

B.M.Waltke and M.O'Connor, *An Introduction to Biblical Hebrew Syntax*, Eisenbrauns. (WO)

Christo H. J. van der Merwe, Jackie A. Naudé, and Jan H. Kroeze. *A Biblical Heberw Reference Grammar.* Biblical Languages: Hebrew 3. Sheffield: Sheffield Academic Press. 1999.(MNK)

E.Kautzsch, translated by A.E.Cowley, *Gesenius' Hebrew Grammer*, Oxford University Press.(GKC)

P. Joüon-T.Muraoka, *A Grammar of Biblical Hebrew*, Gregorian & Biblical Press　(JM)

ヘブライ語Ⅱ　（下田屋一朗）

本年度休講

ギリシャ語Ⅲ　（　　）

本年度休講

ラテン語Ⅰ　（　　）

本年度休講

ラテン語Ⅱ　（　　）

本年度休講

≪全　学　年　共　通≫

教会音楽　（辻　彩乃）

Ⅰ．講義内容

毎日の礼拝で用いる聖歌やチャントを、伴奏がなくても正しく歌えるように練習します。

それと並行して読譜のための基礎的楽典やソルフェージュ、旧約聖書の時代から現代までのキリスト教音楽史、聖歌の発展史、聖歌集に関する基礎知識などを学んでいきます。

また、礼拝における聖歌の選び方を実践的に学びます。

Ⅱ．成績評価

各学期末の試験、授業への参加度で評価します。

Ⅲ．テキスト・参考文献

＊『日本聖公会聖歌集』日本聖公会管区事務所、2006 年（第 2 版が望ましい）

＊宮崎光『聖公会の聖歌―いのちを奏でよ』聖公会出版、2008 年

聖　書　研　究（1～2 学期）　（黒田　裕）

神学生が主体となって聖書の学びを進める。単なる聖書講解ではなく、み言葉を解釈する者と聴く者としての姿勢、また、み言葉を聴いてこの世の人々に共感をもって伝えていく者としての姿勢を養う。今年度は「ヨハネによる福音書第 14 章 15 節」から学ぶ。なお月一回程度、N.T.ライト、山口希生訳『新約聖書と神の民 上巻―キリスト教の起源と神の問題』新教出版社、2015 年の「読書会」を行なう。

実 践 神 学 特 講（3 学期）　（黒田　裕）

通常の授業では取り上げられない課題について、神学生が主体となって学びを進める。具体的には「教会問答」を、①信仰論（信経/聖書/主の祈り）、②サクラメント論、③教会論/ミニストリー論に分けて順次取り上げる。今年度は前年度の続きで問／答２１．からとなる。

教　会　実　習　（黒田　裕）

指導司祭の指導のもとに、派遣された教会における「神の宣教」(ミッシオ・デイ）に参与し、学び、教育され、将来の叙任された奉仕職（聖職）の働きに備える。神学生に具体的に期待されることは、「①奉仕職とは何か、どのような生き方なのかを、指導司祭の背中（生き方、在りよう）を見て感じること」「②信徒、求道者の方々との関わり方や関係のあり方を、指導司祭の背中（生き方、在りよう）を見て感じること」「③この世に仕えるものとしての教会のありようを、体験的に学ぶこと」である。神学生が実習教会の信徒の方から万が一「先生」と呼ばれても、そのことにむしろ違和感を感じ、自らが「仕える者」として召され、遣わされていることを体験的に学ぶことが期待されている。神学生には「教会実習ノート」が配布され、それに必要事項を毎回書き込み、学期末に提出する。１年生は土曜日の午後から日曜日の午後にかけて教会実習を行う。２・３年生は日曜日の朝から午後にかけて教会実習を行う。

夏　期　実　習　（黒田　裕）

宣教の現場の中で、人々との出会いを通して自らの生き方、信仰、自分自身に気づき、テキストからの学びとコンテキスト（文脈・状況）からの学びの統合を試みる。３年に１回、海外もしくは遠隔地研修を行なう。

≪伝道師および信徒の奉仕職養成について≫

＊受講希望者および所属教区の意向を踏まえ、神学館との協議に基づいて柔軟にコースを編成する。

＜今年度休講の科目＞

【１　年　次】　哲学入門
【２　年　次】
【２・３年次】　旧約神学、新約釈義
【３　年　次】　全科目
【選択科目】　ギリシャ語Ⅲ、ラテン語Ⅰ、ラテン語Ⅱ、ヘブライ語Ⅱ
【伝・信奉養】　※受講希望がある場合に適宜開講する。

注）各講義の使用文献・参考文献のうち絶版になっているものもあります。
図書館・先輩等に借りる、あるいは古書店で購入してください。
古書店はインターネット上でも検索・注文できます。

スーパー源氏　：https://www.supergenji.jp/
日本の古本屋　：https://www.kosho.or.jp/
古書店つのぶえ　：https://www.tsunobue.jp/
アマゾン(和洋書/古書)：https://www.amazon.co.jp/

《図書館の利用の仕方》

今年度も引き続き、図書の整理を精力的に行う。分かりにくいことは主事に尋ねること。借り出しの方法も変更があるかもしれないが、その都度指示に従うこと。

◎貸し出しの方法（原則的な事柄）

(1) 机上の「貸し出し記入表」に、分類コード・番号、書名、年月日、氏名を記入する。
(2) 貸し出し期間は、借りた日より２週間。期日厳守。
(3) 聖書、事典、辞典、注解書は「禁帯出」である。教室で使用の場合、またコピーする場合、終わり次第直ちに「元あった書棚の所」に「自分で」戻す。
(4) 図書室での勉強、読書、調べものは、閲覧室の代わりに授業のないときの「教室」を用いる。
(5) 借りたい本が書架にない場合は、本は「貸し出し記入表」を見、借りている人を探す。
(6) 学期末にはすべて返却する。休暇中に貸し出しを希望する場合には、主事または館長の許可を得ること。
(7) 返却は、「貸し出し記入表」に返却月日を記入の上、「元あった書棚の所」に「自分で」戻す。その際、ラベルの１段目の大文字アルファベット、２ 段目の数字が書架を示しているので参考にすること。

A
1
1 2 3 4

(8) 図書室、教室はもちろん、第２ビル内は禁煙。

《生 活 上 の 注 意》

＊以下は、ウイリアムス神学館で共同生活を営むための最低限のルールである。神学生諸君の大人としての常識と良識が期待されている。

（1）浴槽は、原則として月、水、金に使用する。シャワーは随時使用することができる。
（2）毎朝朝食前に、食事当番以外は公の場（玄関、食堂、コモン・ルーム、階段、廊下、トイレ、構内）の掃除をすること。(掃き掃除、ふき掃除)。教室を常にきれいにすることを心がけること。
（3）主日、月曜日、国民の祝日（2 月 11 日を除く）を除く毎日の朝食と土曜日の昼食（弁当）は、当番が用意する。
（4）１年生のみ、土曜日の夕食と主日の昼食は、実習教会で用意していただく。２・３年生は、主日の昼食を実習教会で用意していただく。
（5）門限は午後 11 時とする。教会実習で門限に遅れる場合には、指導司祭にその旨を神学館まで連絡していただくこと。
（6）公の場には、原則として私物を置いたままにしない。いつも整理整頓に心を配ること。
（7）水道光熱に関して、無駄な使用は厳に慎むこと。電気はまめに消すこと。神学館運営経費の多くが、全国の教会や信徒の皆さんから献げられた献金で成り立っていることを覚えて欲しい。
（8）教授が休講その他授業に関する変更を指示した時は、館長・主事及び聴講生にその旨を伝え、ニコルス館ホワイト・ボードの休講欄に記入する。またそれに伴う昼食の用不要を確認し、食事係に連絡する。
（9）学生会は、自主的運営を原則とするが、決定事項は必ず館長･主事にも伝えること。また必要ある事柄（公のもの、対外的なもの）は、予め主事または館長に相談すること。
(10) 学生の役割分担の中に、保健衛生と営繕係を 1 名決めること。保健衛生係は薬箱を管理し、学生の健康状態に配慮する。営繕係は寮内営繕に関する学生側の窓口となる。
(11) お客様が来られた時は、応対・接待を大切にすること。
(12) 特に夜、ホテルの営業の妨げとなるような行為を絶対にしないこと。
(13) 土地建物は教区のものであり、管理は教務所が行っている。関係を大切に。教区と交渉する必要のあるときは、必ず館長・主事を通すこと。
(14) 健康管理は自分で。
(15) 火の取扱いには特に注意すること。冬期の灯油の取扱い、台所の火の始末には細心の注意を払うこと。
(16) ニコルス館（寮)、教区センター側の 4 室および建物内、第２ビル（教室・図書室）は全館禁煙である。
(17) 寮の全室に LAN が設備されている。使用は自由であるが有料サイトには絶対にアクセスしないこと。また個人用パソコンのウィルス対策ソフト等は必ず各自の責任でインストールすること。
(18) コモン・ルームに設置されているパソコンは、神学生がレジュメなどの提出物を印刷する際に使用できる。
(19) コピー機の使用に関して、授業用のものは無料であるが、私的コピーはコピー室備え付けのノートに記入すること（各学期末に清算)。コピー機の使用方法については、上級生に聞くこと。コモン・ルームの印刷機の使用については主事または館長の許可を取ること。
(20) 神学生（聖職候補生）として神学館に学んでいるということは、一般の学生生活とは違う。自分の言動、服装、その他に神学生（聖職候補生）としての自覚と責任を持つこと。「自分の思いのまま

に」ではなく「キリストの十字架を背負う」とはどういうことかを、神学・礼拝・生活を通して真剣に考え続けて欲しい。

(21) 学期中に外泊をする場合は、必ず所定の書式による「外泊届」を主事または館長に提出し、許可を得ること。

(22) 寮の各部屋の鍵は各自で管理し、学年末には館長または主事に返却すること。

(23) 出寮日以後、やむを得ない事情があって寮に滞在する場合、主事に滞在願いを提出し、館長の承認を得ること。ただし、夏期は1泊500円、冬・春期は1泊700円を神学館に納める。(卒業・修了時に任地に赴くまでの春期の3月中の滞在を除く。)

(24) 寮室は原則として、毎年移動する。

(25) その他、常に館長・主事と連絡を密にすること。又、集団生活での約束事を主体的に守り、学生相互のコミュニケーションを大切にして、明るい寮生活ができるように心を配ること。

(26) なお、館長、主事が不在の時に、連絡等が必要になった場合には、ニコルス館(寮)の公衆電話前に掲示してある携帯電話等に連絡すること。

《聴　講　制　度》

１．聴講制度について

2007年度より科目聴講の門戸を今まで以上に大きく開き、下記の条件のもとで、開講することにした。より多くの信徒の方が、この聴講制度を利用して教会の教えや神学についてより深く学び、それぞれの教会で自らの賜物を用いて奉仕の業に励み、また信仰を深められることを期待する。

２．聴講の条件等

１．聖公会信徒もしくは館長が特別に許可した方。
２．所定の聴講料を納付した方。
３．申し出があれば、学期末のテストを受けるか、レポートを提出し、所定の成績を修めた方には、科目履修証明書を発行する。
４．定員によっては開講できないこともある。

３．２０２０年度開講科目（授業内容、担当教員は学年別講義内容を参照のこと）※募集定員：各５名

＊文献講読　＊英書講読　＊旧約入門　＊新約入門　＊教会史　＊旧約釈義　　＊新約神学
＊教理学Ⅰ　＊聖公会論　＊礼拝学Ⅰ　＊教会音楽

４．聴　講　料

＊１科目　45,000 円（年額）

５．聴講手続き

１．聴講申込書に必要事項を記入の上、神学館宛てに郵送するか、ファックスもしくはE-メールで申込むこと。
２．聴講料は最初の授業の時に納付すること。
３．申込締切　４月４日（土）必着

＊できるだけ早めにお願いします。〆切が迫っている時は電話でも結構です。後日申込書をご持参下さい。

６．授業日程（試験週を含む）

１学期　４月　７日（火）～　７月１１日（土）
２学期　９月　９日（水）～１２月　５日（土）
３学期　１月　７日（水）～　３月　６日（土）

７．そ　の　他

＊神学館の図書館を利用できます。
＊昼食が必要な方はお申し出下さい（実費）。

《今さら聞けない!?　キリスト教講座》

教会生活はそれなりに長いのだけれど、こんなこと今さら聞けない、などと疑問に思っておられることに答える、2014 年度からはじまったキリスト教講座です。

今年は「新約思想編」についてです。

担当：嶺重　淑　教授　　対象：日本聖公会信徒　　場所：ウイリアムス神学館

日時：年 10 回　土曜日

午後 2 時～午後 3 時 30 分

4/25, 5/30, 6/20, 7/25, 9/12, 10/10, 11/14, 1/23, 2/27, 3/27

費用：教室受講コース　　8,000 円（1 年間 10 回講義）

教室受講＋ネット受講コース　　10,000 円（ネット受講のみの方もこのコースです）